

山形県立東桜学館中学校 令和7年度 学校評価書

【基本理念】 「高い志」「創造的知性」「豊かな人間性」

- 【学校教育目標】 1 地域社会及び国際社会の発展に貢献しようとする高い志を育てる。
2 豊かな感性や探究心と論理的な思考力を基盤とした創造的知性を育てる。

※評価A～D(A:十分に目標達成 B:目標達成 C:もう少しで目標達成 D:目標達成まで努力)

目標と方策	【評価項目】評価内容(目標数値)	自己評価	外部評価
I 高い志をもつ生徒を育てる			
1 将来の進路の実現に向け、高度な学習に粘り強く挑戦しようとする意志をもつ生徒を育てる。(教務図書課)			
(1)生徒一人ひとりが能動的に学習に取り組めるような学習活動を計画したり、ICT機器を効果的に活用したりするなどし、生徒の興味や関心を喚起する学習環境を整備する。	【学校評価・生徒3】「授業や講習などで、自分の学習到達度をもとに基礎を固めたり、難しい問題に挑戦したりしている。」(AとBで80%以上)	B	B
	【学校評価・保護者4】「子供は、目標をもって学館生活を送っている。」(AとBで90%以上)		
	【学校評価・教員4】「生徒一人ひとりの学習状況の把握を意識し、より効果的な学習指導がなされている。」(AとBで90%以上)		
2 養成期や伸長期の初期指導として、学びの基礎となる「自己管理能力」を育てる。(進路学習課)			
(1)「Weekly Compass(学館オリジナル生活ノート)」「自己管理能力チェック項目」を活用し、行動の意識化を図る。	【学校評価・生徒10】「『自己管理能力18項目』の中で、自分が努力したい項目をあげ、意識しながら生活している。」(AとBで80%以上)	A	A
	【学校評価・生徒11】「Weekly Compassを活用し、三点固定・朝食・家学と家読の時間等を意識しながら生活している。」(AとBで80%以上)		
3 探究的な学びを深める授業づくりを推進し、探究心を持ち、主体的に課題を解決しながら自立して学ぶ生徒を育てる。(研究課)			
(1)校内研究、互見授業、授業づくりの基礎・基本点検を通して、自発的・能動的に学び始める課題の設定と課題解決のための協働的な学びと振り返りの場を重視していく。 (2)生徒の知的好奇心を喚起する研修会、外部研修会や大会等への参加する機会づくりに努める。	【学校評価・教員6】「生徒の知的好奇心を揺さぶる等、生徒の力をより伸ばさせようと授業改善等に取り組んでいる」(AとBで90%以上)	B	A
	【学校評価・教員7】「日常の学習指導の中で、探究的な学びを深めることを意識した授業を積極的に行っている」(AとBで90%以上)		
	「授業力」自己診断シートにおける「指導技術」の項目の評価を4・3合わせて90%以上とする。		
	他校の授業研究会や校外の研修会に参加した教員の報告数を100%とする。		
	外部研修会や大会等へ自主的に参加した生徒の延べ人数を100人以上とする。		
4 マイコンパス(キャリア教育の総称)を通して、社会を知り、社会性を養い、社会に貢献する姿勢を育てるとともに、主体的に進路を選択することができる態度を育成する。(進路学習課)			
(1)授業や職場体験、キャンパスツアー等の諸活動を通じて、自己や「生きること」「働くこと」「学ぶこと」への理解を深めさせる。 (2)進路講演会や学活などの諸活動を通じて、自己と社会とのつながりについて考えを深める機会を充実させ、主体的に進路に向き合う態度を育成する。 (3)「キャリアパスポート」の作成を通し、理想とする自分を思い描いたり、諸活動の振り返りを通して肯定的自己理解を促したりしながら、主体的にキャリアを形成していく能力を育成する。	【学校評価・生徒5】「授業を通して、働くことや職業について考えることがある。」(AとBで90%以上)	B	B
	【学校評価・保護者9】「将来の生き方や働き方について考える学習が展開されている。」(AとBで85%以上)		
	【学校評価・教員10】「マイコンパスにおける肯定的自己理解や職業観・勤労観、将来設計の立案が育まれるよう各学年の計画にもとづいて実践されている。」(AとBで90%以上)		
5 生徒一人ひとりの個性や能力を生かしながら、互いに切磋琢磨し合い、自己管理と自己伸長ができる生徒を育てる。(生徒課)			
(1)あらゆる場面で生徒指導の4つの視点(自己存在感の感受、共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を意識し、互いに協力し合い、高め合える雰囲気をつくることで、生徒が活躍できる場を構築する。 (2)節目ごとに目標設定を意識させ、PDCAサイクルを活用して自己実現できるよう支援する。	【学校評価・生徒10】「『自己管理能力18項目』の中で、自分が努力したい項目をあげ、意識しながら取り組んでいる」(AとBで80%以上)	A	A
	【学校評価・生徒17】「学校行事や学年行事等に積極的に参加し、自分の力を発揮しようとしている」(AとBで85%以上)		
	【学校評価・生徒19】「学校に相談できる人がいる」(AとBで85%以上)		

6 健康・安全についての意識を向上させ、自己管理能力を高める。(保健課)			
<p>(1) 毎朝の健康観察で、生徒一人一人の状況を的確に把握し、保健室や保護者との連携を密にしながら、生徒理解に努める。</p> <p>(2) 健康診断等で治療勧告のあった生徒が、確実に医療機関を受診するよう、担任団と協力し、学校保健委員会で専門家の助言を得ながら受診を勧める。</p> <p>(3) 清掃場所を2週間に1回ずつ交代しながら、ボランティア委員とも協力して取り組み方の意識を高め、新しい校舎をいつまでもきれいなままで保とうという姿勢を育む。</p>	<p>【学校評価 教員19】「生徒の心身の健康・安全について十分留意・配慮しながら指導がなされている。」(AとBで90%以上)</p>	B	B
	<p>「精密検査・治療の勧め」に対する報告を、75%以上を目指す。</p>		
	<p>【学校評価・生徒15】「清掃活動にまじめに取り組むとともに、常に学習環境をきれいにしようと心がけている。」(AとBで80%以上)</p>		
II 創造的知性をもつ生徒を育てる			
1 生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を身に付け、主体的・協働的な学びができる生徒を育てる。(教務図書課)			
<p>(1) 学習評価や生徒による授業評価アンケートの結果を活かした授業改善を行う。</p>	<p>【授業評価・生徒6】「学習では、お互いに学び合ったり、協力して解決したりする場面がある。」(AとBで85%以上)</p>	A	A
	<p>【学校評価・教員6】「生徒の知的好奇心を揺さぶる等、生徒の力をより伸ばさせようと授業改善に努めている。」(AとBで90%以上)</p>		
2 論理的な思考力や批判的思考力、協働的な学びと創造力の土台となる、基礎学力や知識の定着を図る。(進路学習課)			
<p>(1) MT(まなびタイム)、家学ノート、ミスイクノートを活用し、自主的な学習での基礎学力の定着を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの状況に応じて、発展問題や補充問題を提供し、個別指導を進める。</p> <p>(3) 模擬試験実施のねらいと、実施後のデータ分析を通じて、生徒の変容を共有することで、生徒の学力向上への方策を確認するとともに、効果的な授業のための授業改善を行う。</p>	<p>【学校評価・生徒6】「家庭学習を、毎日2時間以上行っている。」(AとBで85%以上)</p>	B	B
	<p>【学校評価・生徒7】「家学ノートやミスイクノートなどを活用し、学力の定着に取り組んでいる。」(AとBで85%以上)</p>		
	<p>【学校評価・生徒3】「授業や講習などで、自分の学習到達度をもとに基礎を固めたり、難しい問題へ挑戦したりしている。」(AとBで80%以上)</p>		
3 未来創造プロジェクトを通して、自ら課題を見つけて、論理的に思考する力、協働して創造する力、探究する力を身に付けさせる。(研究課)			
<p>(1) 未来創造プロジェクトにおいて、自ら課題を設定し探究するカリキュラムを再構築し、実践する。</p> <p>(2) 教員同士の学び合う機会をつくることで、教員同士の共通理解とのスキルアップを図る。</p>	<p>【学校評価・生徒4】「未来創造プロジェクトへ真剣に取り組んでいる。(外部講師の先生の授業も含む。)」(AとBで90%以上)</p>	B	B
	<p>【学校評価・教員9】「未来創造プロジェクトが計画に基づき、身につけさせる力が育まれるよう実践されている。」(AとBで90%以上)</p>		
	<p>生徒の振り返りアセスメントにおける評価項目「課題発見力」「整理・分析・発想力・検証力」「課題追究力」(AとBで80%以上)</p>		
III 豊かな人間性をもつ生徒を育てる			
1 家庭や地域との連携を図り、教育環境や教育活動の充実、生徒の健全育成に努める。(総務課)			
<p>(1) PTA活動や各種行事等の家庭・地域への案内を通し、参画意識を高める。</p> <p>(2) 学校評価を実施・整理し、結果を活かして教育活動の改善・充実を図る。</p> <p>(3) 緊急連絡体制を周知するとともに、必要な場合、速やかな連絡に努める。</p>	<p>各種会合、行事への保護者の参加率85%以上。</p>	A	A
	<p>【学校評価・保護者1】「本校の基本理念や学校教育目標に基づいた教育実践が行われている。」(AとBで80%以上)</p>		
	<p>【学校評価・教員2】「各種教育実践等が、適宜、PDCAのサイクルで適切に行われている。」(AとBで90%以上)</p>		
2 本校の情報発信を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりに寄与する。(総務課)			
<p>(1) 各分掌や学年、部活動顧問等と連携してホームページの更新、学年通信等の刊行を行い、家庭や外部への積極的な情報発信を行う。</p> <p>(2) 学館説明会や創立記念式典等の運営を通し、在校生及び地域の本中学校への関心を高める。</p>	<p>【学校評価・保護者3】「学年通信、学級通信などの配付物や本校ホームページを通して、学校の様子がよくわかる。」(AとBで80%以上)</p>	A	A
	<p>【学校評価・教員16】「自分が担当している教育活動について、ホームページで積極的に情報発信を行い、「開かれた学校づくり」を心がけている。」(AとBで80%以上)</p>		

3 積極的に読書や新聞に親しみ、豊かな感性と人間性を育てる。(教務図書課)			
(1) 図書委員会や編集委員会の生徒会活動とタイアップし、朝読書の徹底と読書ノートの記入、新聞の活用を推進していく。	【学校評価・生徒8】「月1冊程度、本を読んでいる。」(AとBで85%以上)	C	C
	【学校評価・生徒9】「学習メディアセンターやまなびあテラス等の公共の図書館で本を借りたり、学習したりするなどして、利用している。」(AとBで75%以上)		
4 周囲とのかかわりを大切に、諸活動に目標をもって自主的・創造的に活動できる生徒を育てる。(生徒課)			
(1) 様々な活動を通して、自己や他者の長所、資質・能力などについて振り返る機会をもつ。 (2) 各種委員会の活動や各種学校行事において様々な立場を経験させることを通して、集団力と個の実践力向上を目指す。 (3) 部活動や各種大会等に主体的に取り組めるような環境を整え、それらの活動を通して自主自立の力を身につけさせる。	【学校評価・生徒18】「仲間を大切に、いろいろな活動を協力して行っている」(AとBで85%以上 Aで50%以上)	A	A
	【学校評価・生徒12】「部活動に精一杯取り組んでいる」(AとBで85%以上 Aで50%以上)		
	【学校評価・生徒13】「生徒会活動や学級の係活動に責任をもって取り組んでいる」(AとBで85%以上 Aで50%以上)		
5 挨拶等が活発で明るく、いじめを生まない学校づくりを目指す。(生徒課)			
(1) 校内外を問わず、自分から進んで挨拶することができるよう、生徒間、生徒・教員間、教員間で挨拶励行する。 (2) 「思いやりの芽を育てるアクションプラン」を各学級で設定し意識して生活させることを通して、いじめを生まない環境づくりを行う。	【学校評価・生徒1】「進んであいさつや返事をしている」(AとBで85%以上 Aで50%以上)	B	B
	【学校評価・生徒20】「学級で決めた『思いやりの芽を育てる全校アクションプラン』を実行し、いじめのない学級づくりを心がけている」(AとBで85%以上 Aで50%以上)		
6 生徒・保護者との相談活動を通して、悩みや問題を抱えた生徒の早期発見と支援に努め、適切な方向に導くことができるようにする。(保健課)			
(1) 「心のアンケート」を月1回実施し、QUの結果分析と併せて生徒一人一人の心の在り方について把握し、必要に応じてSCや教育相談委員会と連携しながら、問題の解決に取り組む。 (2) 思春期特有の悩みを持ちながらも、前に進もうとするしなやかな心を持った生徒を育成するために、担任・SCとの面談や、健康講話を推進する。	【学校評価 教員18】「生徒のメンタルヘルスケアに対する配慮と指導がなされている」(AとBで90%以上)	B	A
	【学校評価 保護者12】「健康に関わる各種講話など心の教育に力を入れるとともに、カウンセリングなどが利用しやすく、心のケアの体制が整えられている」(AとBで80%以上)		
7 食物や作ってくださる方々への感謝の気持ちを持ち、心と体を健全に成長させるために好き嫌いなく給食を食べる生徒を育てる。(保健課)			
学校栄養士と協力しながら、地産・地消メニューについて学んだり、給食委員会の「残菜0」を目指す取り組みを積極的に行ったりしながら、心を育てる食育を進める。	【学校評価 生徒16】「たのしく給食を食べることができている」AB80%以上の達成。	B	A
	【学校評価 保護者14】地産地消や旬の食べ物を取り上げ、給食を提供するなど、心と身体を育む食育が推進されている。		
	東根市や山形県で生産されている食材、特色ある食材を使用し、献立で紹介している。(毎月)		
8 地域社会の人々や仲間と交流や学びを推進し、お互いの良さを認め、協働して課題を解決する力を身につけさせる。(研究課)			
(1) 未来創造プロジェクトの学習過程で、大学・研究機関や企業など地域社会の多様な人々と交流する取り組みを推進する。 (2) 中間及び成果発表会等の場で、生徒同士が互いに助言し合う場面を意図的・計画的に設定する。 (3) 見出した地域の問題を自分自身の事としてとらえさせ、解決策を試行錯誤させながら、よりよい提案をさせられるように支援する。	大学や企業、地域など校外の方々との交流を行った生徒数(延べ人数を120人以上)	B	B
	生徒の振り返りアセスメントにおける評価項目「協働する力・表現力」(AとBで80%以上)		